

市長	副市長	教育長	教育次長	課長	課長補佐	係長	記録

【所属名：市教育委員会事務局生涯学習課図書館係】
【会議名：第3次糸魚川市子ども読書活動推進計画
第3回策定委員会】

開示
一部開示 (理由:条例第 条第 号 該当)
不開示
時限不開示 (開示: 年 月 日)

会議録

作成日 令和5年11月23日(木)

日	令和5年11月16日(木)	時間	10:00 ~12:00	場所	糸魚川地区公民館 2階音楽室
件名	(議題) 第3次糸魚川市子ども読書活動推進計画の策定について				
出席者	【出席委員】10名(敬称略) 辻村 貴洋、関原 和人、小山 智穂、福原 政子、磯谷 芳子、朝日 仁美、 伊藤 麗美、川合 真生、富澤 博子、川合 弥嘉 (欠席者:山本 裕美) 【事務局】生涯学習課:山本課長、伊藤課長補佐、七澤主査、大西主任主事 こども課:山岸園長、(欠席)山中センター長				
	傍聴者定員		5人	傍聴者数	0人

会議要旨

進行:事務局

- 1 開会(10:00)
- 2 挨拶 課長、委員長
- 3 協議

(1) 第2回協議事項の修正案の報告(園、学校)

委員:「青春サポーター」とは何か。

事務局:生涯学習課が実施している、高校生ボランティアを支援する取組。青春(アオハル)と読む。
例えば市民図書館では読み聞かせボランティアを募集し、今年はこれまでに計4名の高校生が参加した。活動終了後には証明書を渡している。説明が必要であるため、用語の解説に記載する。

委員:証明書の交付を受けることによって何かメリットはあるのか。

事務局:教育長名で発行する証明書で、大学などのAO入試や就職活動などで役立ていただきたいと考えている。この取組は読書に特化したものではなく、様々な事業と連携して実施している。

委員:青春サポーターだけでなく、小学校の社会貢献のクラブなどもあるので、表現の工夫をお願いしたい。

事務局：当初ジュニアボランティアという制度があり、小学生・中学生のボランティアも募集していたが、なかなか参加者が集まらなかった。まずは高校生に特化し、そこから広げていきたいと考えている。

委員：「おはなしを聞く力」とあるが、「感じる」「想像する」などの感性の部分も入れてもらいたい。「図鑑や絵本で調べる学ぶ体験」にも感性的な部分を入れて欲しい。この計画を見て幼稚園・保育園の先生方が取り組めるように、幼児期には感性を重視する表現が必要。

事務局：そのような表現を追加する。

委員：「子育てに活かせる絵本の紹介」とあるが、絵本の中には「お母さん大好き」といったような、保護者の心に響くものもある。生活面だけの特化だけではなくて、子育て全てを含んだ表現になると良い。

事務局：「読書機会の充実」に子どもだけでなく保護者におすすめしたい本の充実について記載している。その啓発という意味では「保護者への啓発」に追記を検討する。

委員：学校図書館の環境整備について、図書館システムの導入は良いが、他の学校図書館とネットワークでつながり情報共有が可能になると、相互貸借が可能になるため、図書の管理面で問題が生じる。

事務局：学校司書が配置されていない学校での管理については検討が必要。

委員：電算化は助かるが、その際には図書の整理や廃棄など、人の手や知識が必要になる。システムを作るときは図書館や行政に学校図書館支援センターなど統括する機能を置いて、学校図書館への指導や、各学校図書館の利用状況を把握し、市民図書館の選書に反映するなどできると良い。

事務局：「図書館システムの導入」については、検討するための理由としてシステム導入のメリットを前段に記載してしまったため誤解を招く文章となっているが、あくまでも「検討」であるということのを了承いただきたい。また、検討するに当たっては具体的なことを議論していかなければならないが、現段階ではそこまで進んでいないということをご承知おきいただきたい。

委員：導入については難しいということを知っているのに計画に載せてもらえるのはありがたい。書き方として、システム導入の件の前に「将来的に」と追記してもらえれば良いと思う。

事務局：まずは関係部署との協議というところになると思う。これまであまりできなかった部分もあるので、書き方については検討して計画に反映させたいと思う。

委員：「保護者への啓発」について。PTAからのお便りにおすすめの図書が載っており、良いことだと思ったが、漢字が多く子どもには読めなかった。またその本が学校で借りられるのか、買わないと読めないのか分からなかった。お便りを出せば良いというものではなく、内容を詰めることが大事だと思う。

事務局：計画にはおすすめの本の情報提供をすることで啓発を支援すると記載している。必要とされる情報を提供できるよう取り組みたい。

(2) 第3次計画の方向性の確認(家庭、地域、図書館)

委員：図書館の環境整備にWi-Fiの整備は入れなくて良いのか。

事務局：市民図書館は導入済み。能生と青海は図書館が入っている施設で導入している。

委員：高校生の利用者増のためにもその辺りをアピールするのは良いのでは。また、青春(アオハル)サポーターについて具体的にどこかに記載があると良い。

事務局：中・高校生へのアプローチとしては、「学校と図書館の協働による学生ボランティアの育成」に記載している。図書でのイベントに巻き込むことによって興味を持ってもらい、図書館の利用や読書習慣に繋がりたいというもの。「青春(アオハル)サポーター」の記載を追加する。

委員：小学生も「子ども司書」など全国的に広がっている活動があり、ボランティア育成をしていただきたいので、是非小学生も入れて欲しい。

事務局：追加する。

委員：紅梅文庫について、今置かれている施設ではおもちやと一緒にっており、管理面が心配。

事務局：建物の所管は今年度より他課に移っているが、担当課と連携し適切に管理していく。

委員：「図書館見学の受け入れ」とあり良いと思った。学校でも図書館見学を検討してほしいので、学校の「本と出会うきっかけづくり」などに入れてはどうか。

事務局：記載する。

(3) 計画全体の説明

委員：全体的に「ボランティア」の記載が多い。ボランティアも大事だが、専門性のある人材の登用についても記載があると良い。

事務局：検討する。

事務局：本屋については記載しなくて良いのか。本の見せ方の工夫など、読書活動の推進に関係しているのでは。

委員：イベントなどで本屋と連携することはできると思う。どこかに入れ込むことで、全体で読書活動を推進することが表せるのではないか。

4 総括 委員長、副委員長

5 その他 次回の委員会日程について

6 閉会 (12:00)